30　マッチングイベント出展による鶏ふんペレットの需要創出（有限会社気仙環境保全）

畜産環境対策事業ほか　岩手県住田町　2025年９月時点

鶏ふん　ペレット　広域流通

○　有限会社気仙環境保全は、地域の養鶏場（肉用鶏）から発生する鶏ふんの炭化、鶏ふん堆肥のペレット化による特殊肥料の製造・販売を行い、発酵鶏ふんペレットは海外にも販売を展開。

■国内資源の種類

・鶏ふん

■作物

・野菜・水稲
・果物・麦・大豆

■肥料の種類・肥料名称

・種類：特殊肥料(堆肥)
・肥料名：
　発酵鶏ふんペレット(15kg袋)
　鶏ふん炭(40ℓ)

■保証成分・特徴等

発酵鶏ふんペレット（鶏ふん炭入）

N	P	K	C/N比
3.9	3.5	5.6	11.1

鶏ふん炭

N	P	K	C/N比
3.8	7.2	12.4	13

・pH11.2

■活用補助事業

・バイオマスの環づくり交付金(炭化施設)
・畜産環境対策総合支援事業(ペレット化施設)

■取組の経緯・内容・成果（見込み）

取組の経緯

・（有）気仙環境保全は地域の養鶏農家から発生する鶏ふんを収集し、資源の有効活用のため、炭化処理及び堆肥化処理を行うとともに、製品のペレット化等により需要創出に取り組む。

取組の内容

・発酵鶏ふんは再発酵や粒の結着を防止するため、水分調整（基準15%）を徹底。
・鶏ふん炭は水分が少なく長期保管が可能なため、JAや肥料販売者・ホームセンターでの販売をはじめ、農地、ゴルフ場等の融雪や畜舎の敷料等に幅広く利用されている。

成果（見込み）

・発酵鶏ふんのペレット化により、ブロードキャスターで散布可能となるなど耕種農家の利便性が向上。
・発酵鶏ふんペレットは「国内肥料資源の利用拡大に向けたマッチングフォーラムin東北」に出展したことがベトナムへの輸出需要の開拓に結びつき、通年出荷による経営安定に寄与。

■主たる取組主体と肥料利用までの流れ

資源供給者	肥料製造者	肥料利用者
養鶏農場（住田フーズ（株）関連農場） →	有限会社 気仙環境保全（岩手県住田町） → ペレット	国内の耕種農家等 ベトナムへの輸出
	→ 鶏ふん炭	肥料利用 農地やゴルフ場等の融雪剤 バイオ炭（実証試験中）
	→ 鶏ふん炭	畜産農家での敷料利用→堆肥→耕種農家

■今後の課題・取組

・全国的にペレット化された製品が増加し、発酵鶏ふんペレットの国内販売は伸び悩み。
・新需要創出のため、炭化鶏ふんのペレット化にも取り組むがコストが課題。
・（株）TOWINGが主導するＪ-クレジットの方法論「バイオ炭の農地施用」を活用した実証試験に参画しており、炭化鶏ふんの新需要創出に期待。